

1 審査対象事項	研究計画 研究成果の出版・発表 審査が必要と認められる研究等
2 研究課題	早期乳がんを診断するためのPND(乳頭分泌液)や保存凍結がん組織を用いた分子マーカ探索研究
3 研究者名	相川隆夫
4 研究協力者名	<p>松浦成昭 大阪大学医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座 教授 松浦脩治 大阪大学疾患分子情報解析学(和光純薬工業) 特任教授 黒野 定 大阪大学疾患分子情報解析学(和光純薬工業) 招聘准教授 檜枝美紀 大阪大学疾患分子情報解析学(和光純薬工業) 特任助教 染原俊朗 大阪大学疾患分子情報解析学(和光純薬工業) 招聘研究員 野口眞三郎 大阪大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科 診療科長 玉木康博 大阪大学医学部附属病院 病院教授 稲治英生 大阪府立成人病センター 乳腺・内分泌外科主任部長 古妻嘉一 古妻クリニック</p>
5 研究の概要	<p>乳がんは多くの場合、母乳の通り道である乳管に発症する病気である。乳がんは他のがんと比べて大きくなる速度が遅く、早いうちに発見し適切な処置を行えば完治するケースが多い。また乳がんの大きさが小さいうちに手術を行えば、最近では乳房温存手術も大変進歩しており、昔のように乳房を取り去ってしまうケースはどんどん減ってきている。何よりも「早く・正確に」乳がんが初期の段階で診断して発見する事が大変重要と考えられる。これらの観点から乳管内の情報を直接得るためにPND(乳頭分泌液)をサンプルとして用いて、分子生物学的マーカ探索手法(プロテオミクス)を応用することにより、より早期段階での乳がんを診断することが可能になると期待している。</p> <p>目標採取症例数として、乳腺疾患を疑われる症例100例、保存凍結乳がん組織については30例程度を計画しており、登録期間は3年を考えている。採取した検体の</p> <p>解析については例えばJohns Hopkins Medical Instituteのグループが Clin Cancer Res 2005に、University of LondonのグループがEuropean Journal of Cancer 2007 に SELDI-MSを用いたNAFと乳管洗浄液中の乳がん早期マーカの検討を報告している。但しSELDI-MSではペプチド鎖の分子量が判るだけでタンパク一次構造は解析できないため、本研究では最新のLC-MS/MSを活用し感度や試料前処理の検討を重ね、マーカタンパクの一次構造決定を目指したい。また、新規マーカ候補のバリデーションの目的で、採取がん組織の形態学的解析や血清中の既存乳がんマーカ分子との相関等の検討も行なう予定である。</p>